

今日のみことば

□ 5月28日(日) ヘブル 11章

旧約時代の人々は神の約束を与えられただけで、それを信頼しなければならなかった。彼らは神は約束されたことを必ず実践して下さると信じて行動しました。

□ 5月29日(月) ヘブル 12章

信仰の勇者と比べて、あまりにも力がないと感じるなら、証人には目を奪われずに、主イエスを仰ぎ見て、走り続けることが大切です。

□ 5月30日(火) ヘブル 13章

世は移り変わり、人もまた変わるが、永遠に変わらないのは主イエスだけである。この主イエスとその愛がかわらないということが、私たちの信仰の根拠です。

□ 5月31日(水) ヤコブ 1章

この手紙は主の弟のヤコブの手紙です。主の生前は主を信じなかったが、のちに信じた。彼の信仰告白はこの手紙の冒頭にある自己紹介に表れている。

□ 6月1日(木) ヤコブ 2章

私たち信仰者は、近視眼的な見方をしてはならない。信仰の本質は、全面的な献身、信仰の産物として正しい行い、実の伴わない信仰は、何の役にも立たない。

□ 6月2日(金) ヤコブ 3章

人はやたらに教師となつてはならない。教師になることをあこがれるのは愚かなことである。聖書を正しく教えないと、人を滅びに陥れかねない。

□ 6月3日(土) ヤコブ 4章

私たちは世の友となつてはならない。私たちのうちに住んでおられる聖霊は、私たちの愛が純粹であり、主に忠実であることを求めておられる。

ろば No. 1817

2017年 5月28日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

ヨシュア24:15

もし主に仕えたくないというならば、川の向こう側にいたあなたたちの先祖が仕えていた神々でも、あるいは今、あなたたちが住んでいる土地のアモリ人の神々でも、仕えたいと思うものを、今日、自分で選びなさい。ただし、わたしとわたしの家は主に仕えます。

ヨシュアの「わたしとわたしの家は主に仕えます」との言葉は、私たちの心にしっかりと刻みつけられてきた言葉です。私たちの心からの願いでもあります。私はヨシュアのこの決断が、私たちの共通の認識でありたいと願っています。それはイスラエルの民を導いてきて下さった神を受け止めて生きる私たちの有り様です。

イスラエルの民はモーセに導かれて出エジプトをし、約束の地へ向かいましたが、不信仰のゆえに目的地を前にして40年間の荒野での試練の時を過ごして、もう一度、約束の地カナンを目指します。モーセは約束の地に足を踏み入れることはできませんでしたが、その後を託されたヨシュアは、神のお計らいの中で、イスラエルの民

は定住の地を得ることができました。

イスラエルの民の歴史は、神との契約関係で成り立っています。その条項への服従は、彼らの地における繁栄と安全を、過去と未来にわたってもたらすこと。過去の神の言葉への不従順は、国家的なまた個人的な荒廃をもたらしたように、将来にもまた荒廃をもたらすということにありました。このヨシュア記から列王記にかけての諸文書は、カナンの地におけるイスラエルの歴史が、この原則にいかん例証しているかを示すものです。

私たちはこのヨシュアの晩年の言葉を通して、今日の私たちが、どのように生かされてゆくかを聞かせていただくのです。

数千年昔の言葉に、私たちの繁栄の真実が告げられていることに驚きを禁じ得ませんが、それが人類が歩んできた道であることをしっかりと確認させていただくことです。

私はヨシュアの告別の説教（ヨシュア記23章）を聞きながら、万物の主なる神の慈しみを憶えさせていただくのでした。弱い人間の不信心と悔い改めの繰り返しの中で、そこには少しの進歩も見いだしがたい、愚か者の姿を見るだけですが、この繰り返しのうちに、見えてくるものを受け止めることができるのが人間であろうと思わせていただくのでした。私たちはなおも、その繰り返しを続けるのでしょうか。

ヨシュアは、神がアブラハムに「あなたの子孫にこの土地をあたえる」（創世記12:7）と言われたシケムに民の代表者を集めて、改めて告別の辞を述べました。そこでは明確に主なる神への忠誠を求めました。平安で安泰した生活になれた民に、どこまでの本気度があるかを問うのです。信仰は強制的に強いられたものではなく、また形式的に模倣をするものでもなく、めいめいが自発的に進んでこれを受け入れるものです。ヨシュアは自らを模範を示して「わたしとわたしの家とは主に仕えます」と宣言をするのでした。神はいつも私たちにその本気度を問われています。ヨシュアのさらなる念押しに、私はイエスがペテロに三度も「わたしを愛するか」と問われた（ヨハ21:15-19）言葉を思い出すのです。それほどまでに、神は私たちにみ言葉に生き、豊かな平安な日々を願っておいでになるのです。私たちは、私たちの家族の救いへの願いの本気度を確認しなければならないのでしよう

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————

箴言31:10-31 箴言が告げる大いなる婦人

箴言の書は、主を恐れよという命令から始まり(1:7) この命令を守る女性の描写で終わる。彼女の特質が、この書に一貫して描かれている。

熱心な働き、神への恐れ、配偶者への敬意、先への見通し、励まし、他者への配慮、貧しい人たちへの関心、金銭を扱う上でのそれである。ここに描かれている女性は、ある人たちが聖書の女性像として描いているものとは異なるかも知れない。傑出した能力を持っており、一人の女性と言うより理想的な女性像かも知れない。

しかし、このような特質が神へ恐れと一つとなると、喜び成功、榮譽、値打ちをもたらします。箴言は、どのように知恵を得、よい決断をし、神の理想に従って生きるかを示してくれ私たちにっては実用的である。



Read God's Word.